

蘭越町における

『全国学力・学習状況調査』の結果について
(平成27年度)

蘭越町教育委員会

はじめに

道教委では、今年4月21日に実施した「平成27年度全国学力・学習状況調査」の調査結果を、8月に公表しました。教育委員会では、本町の調査結果について、道教委が作成した「北海道（公立）における調査結果」に沿って概要を取りまとめました。

今年で9回目となります本調査は、昨年度と同様に悉皆調査で実施され、本町も全小中学校において実施しております。

本調査の目的は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることと、各市町村教育委員会、学校が、自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立し、また、各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。

本調査によって、測定できるのは学力の特定の一部であることや、学校の教育活動の一側面に過ぎないことなどを踏まえて、序列化や過度な競争につながらないように十分に配慮することが必要であります。

その上で、保護者や地域住民に対する説明責任を果たすため、数値を含まない調査結果の状況や傾向を明らかにするものです。

教育委員会では、今後、各学校において本調査の分析を基に、課題や改善の方向性を明らかにした学力向上改善プランの作成を促し、教育指導の改善に向けた取組を進めることとしております。

なお、各学校が取り組む「長期休業中の補充的な学習」、「課外補充学習」など、学力向上のための具体的な活動については、引き続き、予算措置の上、支援することとしております。

【本調査の概要】

- 1 調査期日 平成27年4月21日（火）
- 2 対象学年 小学校第6学年、中学校第3学年
- 3 調査内容
 - ① 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）
 - ・主として「知識」に関する問題
小学校（国語A～14問、算数A～16問）
中学校（国語A～33問、数学A～36問）
 - ・主として「活用」に関する問題
小学校（国語B～9問、算数B～13問）
中学校（国語B～9問、数学B～15問）
 - ・「知識」「活用」に関する問題（本年度調査、3年に1度調査）
小学校理科（24問）
中学校理科（25問）
 - ② 生活習慣や学習環境に関する調査
 - ・児童生徒質問用紙調査～学習意欲・学習方法など
 - ・学校質問紙調査～児童生徒の全体的状況など

4 調査を実施した学校・児童生徒数（全国・北海道数値は、公立校数）

区分 校種	全 国(公立)		北海道(公立)		蘭 越 町	
	実施学校数	児童生徒数	実施学校数	児童生徒数	実施学校数	児童生徒数
小学校	20,005校	1,061,301人	1,076校	42,068人	2校	39人
中学校	9,691校	1,016,737人	606校	40,966人	1校	43人
合計	29,696校	2,078,038人	1,682校	83,034人	3校	82人

5 教科に関する調査結果

（1）本年度の本町及び後志管内の児童生徒と全道の平均正答率の比較

区 分	小 学 校					中 学 校					
	国語A	国語B	算数A	算数B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科	
全道の平均正答率との比較	本町	上回る	相当上回る	相当上回る	ほぼ同じ(上位)	やや上回る	ほぼ同じ(下位)	同じ	やや下回る	ほぼ同じ(下位)	下回る
	後志	ほぼ同じ(下位)	同じ	同じ	同じ	ほぼ同じ(下位)	ほぼ同じ(下位)	ほぼ同じ(下位)	ほぼ同じ(下位)	ほぼ同じ(下位)	ほぼ同じ(下位)

(2) 過去8年間における本町の児童生徒と全道の平均正答率の比較

区 分	小 学 校				中 学 校				
	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	
全道 の平 均正 答率 との 比較	H19	下回る	下回る	下回る	下回る	やや 下回る	下回る	ほぼ同じ	ほぼ同じ
	H20	やや 下回る	ほぼ同じ	下回る	ほぼ同じ	ほぼ同じ	下回る	下回る	やや 下回る
	H21	ほぼ同じ	下回る	ほぼ同じ	ほぼ同じ	下回る	下回る	下回る	下回る
	H22	ほぼ同じ	ほぼ同じ	ほぼ同じ	ほぼ同じ	ほぼ同じ	やや 下回る	下回る	下回る
	H23	ほぼ同じ	ほぼ同じ	ほぼ同じ	ほぼ同じ	ほぼ同じ	上回る	ほぼ同じ	上回る
	H24	ほぼ同じ	ほぼ同じ	ほぼ同じ	ほぼ同じ	ほぼ同じ	ほぼ同じ	下回る	下回る
	H25	ほぼ同じ	やや 下回る	ほぼ同じ	ほぼ同じ	やや 下回る	ほぼ同じ	やや 下回る	下回る
	H26	ほぼ同じ (上位)	ほぼ同じ (下位)	ほぼ同じ (上位)	ほぼ同じ (上位)	ほぼ同じ (上位)	やや 下回る	下回る	相当 下回る

(3) 教科ごとの調査結果

○小学校国語

○国語A（知識）について、全道の平均正答率が68.1%であり、本町の児童はその割合が上回り、相当数の児童が今回出題している学習内容をおおむね理解していると考えられる。
○国語B（活用）について、全道の平均正答率が63.0%であり、本町の児童はその割合が相当上回り、相当数の児童が今回出題している学習内容をおおむね理解していると考えられる。

○設問別の正答率（正答率及び無回答率の高いもの）

1 小学校国語A（知識）

〈正答率80%以上の設問〉（14問中4問）

設 問 の 概 要	出 題 の 趣 旨
漢字を読む (友人を家に招く)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む
説明の文章の書き方の工夫として 適切なものを選択する	具体的な事例を挙げて説明する文章を書く

〈無回答率20%以上の設問〉（14問中0問）

2 小学校国語B（活用）

〈正答率80%以上の設問〉（9問中4問）

設問の概要	出題の趣旨
見出しの表現の工夫についての説明として適切なものを選択する	目的や意図に応じ、記事に見出しを付ける
声に出して読むときの工夫とその理由を書く	登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読する

〈無回答率20%以上の設問〉（9問中0問）

○小学校算数

○算数A（知識）について、全道の平均正答率が72.3%であり、本町の児童はその割合が相当上回り、相当数の児童が今回出題している学習内容をおおむね理解していると考えられる。
○算数B（活用）について、全道の平均正答率が42.5%であり、本町の児童はその割合がほぼ同じであり、相当数の児童が今回出題している学習内容をおおむね理解していると考えられる。

○設問別の正答率（正答率及び無回答率の高いもの）

1 小学校算数A（知識）

〈正答率80%以上の設問〉（16問中9問）

設問の概要	出題の趣旨
6.79－0.8を計算する	末尾の位のそろっていない小数の減法の計算をすることができる
作成途中の直方体の展開図について、残りの一つの面の長方形の縦と横の辺の長さを書く	示された見取図の情報を基に、展開図に必要な面の大きさを読み取ることができる

〈無回答率20%以上の設問〉（16問中0問）

2 小学校算数B（活用）

〈正答率80%以上の設問〉（13問中1問）

設問の概要	出題の趣旨
平行四辺形を構成することができる、四つの辺の組み合わせを選ぶ	平行四辺形の性質を基に、平行四辺形を構成することができる辺の組み合わせを理解している

〈無回答率 20%以上の設問〉(13問中4問)

設問の概要	出題の趣旨
合同な二つの三角形を巻き尺でつくったときに、②の角が 30° になるわけを書く	正三角形の性質や合同な三角形の性質を基に、②の角が 30° になる理由を記述できる
示された図形の色がついた部分の面積を求める	条件を変更した場面に面積を2等分する考えを適用して、示された部分の面積を求めることができる

○小学校理科

○全道の平均正答率が59.3%であり、本町の児童はその割合がやや上回り、相当数の児童が今回出題している学習内容をおおむね理解していると考えられる。

○設問別の正答率(正答率及び無回答率の高いもの)

〈正答率80%以上の設問〉(24問中6問)

設問の概要	出題の趣旨
振り子が1往復する時間を変える要因を調べるため適切に条件を変えた振り子を選ぶ	振り子時計の調整の仕方を調べるための実験について、条件を制御しながら構想できる
生物の成長に必要な養分のとり方について、仲間分けした観点を選ぶ	生物の成長に必要な養分のとり方について、調べた結果を視点をもちて考察して分析できる
水蒸気の状態の説明として当てはまるものを選ぶ	水蒸気は水が気体になったものであることを理解している

〈無回答率 20%以上の設問〉(24問中2問)

設問の概要	出題の趣旨
示された器具(顕微鏡)の名称を書く	顕微鏡の名称を理解している

○中学校国語

○国語A（知識）について、全道の平均正答率が75.8%であり、本町の生徒はその割合がほぼ同じであり、相当数の児童が今回出題している学習内容をおおむね理解していると考えられる。

○国語B（活用）について、全道の平均正答率が65.7%であり、本町の生徒はその割合がほぼ同じであり、相当数の児童が今回出題している学習内容をおおむね理解していると考えられる。

○設問別の正答率（正答率及び無回答率の高いもの）

1 中学校国語A（知識）

〈正答率80%以上の設問〉（33問中14問）

設問の概要	出題の趣旨
スピーチの途中で聞き手の反応を見て、とった対応として適切なものを選択する	相手の反応を踏まえて話す
「なぜ、配水管はS字形になっているのか。」という問いに対する答えとして適切なものを選択する	文章から適切な情報を得て、考えをまとめる
漢字を読む(シャツの袖をまくる)	文脈に即して漢字を正しく読む

〈無回答率20%以上の設問〉（33問中2問）

設問の概要	出題の趣旨
「成否」という言葉を、聞いてわかりやすい表現に直す	聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して話す

2 中学校国語B（活用）

〈正答率80%以上の設問〉（9問中4問）

設問の概要	出題の趣旨
ウェブページの文章内の内容について述べた文の空欄に当てはまる言葉として適切なものを選択する	目的に応じて文章を要約する
「お泣きなさるな」という翻訳の効果として適切なものを選択する	表現の工夫について自分の考えをもつ

〈無回答率 20%以上の設問〉（9問中 1 問）

設 問 の 概 要	出 題 の 趣 旨
文章の最後の一文があった方がよいかどうかについて、話の展開を取り上げて自分の考えを書く	文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く

○中学校数学

- 数学A（知識）について、全道の平均正答率が 63.0%であり、本町の生徒はその割合をやや下回っているため、基礎的・基本的な知識・技能に課題があるといえる。
- 数学B（活用）について、全道の平均正答率が 39.7%であり、本町の生徒はその割合がほぼ同じであり、相当数の児童が今回出題している学習内容をおおむね理解していると考えられる。

○設問別の正答率（正答率及び無回答率の高いもの）

1 中学校数学A（知識）

〈正答率 80%以上の設問〉（36 問中 5 問）

設 問 の 概 要	出 題 の 趣 旨
12 : 9 と等しい比を選ぶ	比の意味を理解している
直角三角形の斜辺を軸として回転させてできる立体を選ぶ	直角三角形の斜辺を軸とする回転によって構成される空間図形の形を理解している

〈無回答率 20%以上の設問〉（36 問中 11 問）

設 問 の 概 要	出 題 の 趣 旨
赤いテープの長さが α cm で、白いテープの長さの $\frac{3}{5}$ 倍のとき、白いテープの長さを α を用いた式で表す	数量の関係を文字式に表すことができる
連立二元一次方程式を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる
比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求める	与えられた比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求めることができる

2 中学校数学B（活用）

〈正答率 80%以上の設問〉（15問中0問）

〈無回答率 20%以上の設問〉（15問中10問）

設問の概要	出題の趣旨
投映距離と投映画面の高さの関係を式で表す	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる
連続する3つの整数の和が中央の整数の3倍になることの説明を完成する	事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる
四角形EFGHがいつでも平行四辺形になるように点Fの位置を決める方法を、平行四辺形になるための条件を用いて説明する	図形に着目して考察した結果を基に、問題解決の方法を図形の性質を用いて説明することができる

○中学校理科

○全道の平均正答率が53.3%であり、本町の生徒はその割合を下回っているため、基礎的・基本的な知識・技能、知識・技能を活用する力に課題があるといえる。

○設問別の正答率（正答率及び無回答率の高いもの）

〈正答率 80%以上の設問〉（25問中0問）

〈無回答率 20%以上の設問〉（25問中8問）

設問の概要	出題の趣旨
濃度5%の塩化ナトリウム水溶液100gをつくるために必要な塩化ナトリウムと水の質量を求める	特定の質量パーセント濃度の水溶液の溶質と水のそれぞれの質量を求めることができる
電磁石を動かさず、スイッチを入れたり切ったりすると、検流計の針が振れる理由を、「磁界」という言葉を使って説明する	技術の仕組みを示す場面において、スイッチの入り切りによる磁界の変化を説明することができる
キウイフルーツの上に置いたゼリーの崩れ方に違いが見られたという新たな疑問から、適切な課題を記述する	見いだした問題を基に、適切な課題を設定することができる

6 生活習慣や学習環境に関する調査結果

【児童生徒質問紙調査結果から】

(1) 『学習に対する関心・意欲・態度』

- 国語の勉強が「好き・どちらかといえば好き」な児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校では上回り、中学校ではほぼ同じになっている。
- 国語の勉強が「役に立つ・どちらかといえば役に立つ」と思う児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校ではほぼ同じく、中学校では同じになっている。
- 算数・数学の勉強が「好き・どちらかといえば好き」な児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校ではほぼ同じく、中学校では相当下回っている。
- 算数・数学の勉強が「役に立つ・どちらかといえば役に立つ」と思う児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校ではほぼ同じく、中学校では相当下回っている。
- 理科の勉強が「好き・どちらかといえば好き」な児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校ではやや上回り、中学校では相当下回っている。
- 理科の勉強が「役に立つ・どちらかといえば役に立つ」と思う児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校は相当上回り、中学校では同じくになっている。

(2) 『学習時間等』

- 平日、家庭における1日当たり1時間以上勉強する児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校・中学校ともに相当下回っている。
- 平日、家や図書館における1日当たり30分以上読書する児童、1時間以上読書する生徒の割合は、全道と比べて、小学校では相当下回り、中学校では同じになっている。
- 「家で学校の授業の予習（復習）をしている」児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校ではやや上回り、中学校ではやや下回っている。
- 「家で学校の宿題をしている」児童生徒の割合は、全道と比べ、小学校ではほぼ同じで、中学校では相当下回っている。

(3) 『基本的な生活習慣』

- 朝食を「毎日食べている・どちらかといえば食べている」児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校ではやや上回り、中学校ではほぼ同じになっている。
- 毎日同じくらいの時刻に寝て（起きていますか「している・どちらかといえばしている」児童生徒の割合は、小学校では同じ割合で、中学校ではやや下回っているが、「している」だけを比較すると中学校では相当上回っている。

(4) 『自尊意識・規範意識等』

- 自分には、よいところが「当てはまる・どちらかといえば、当てはまる」児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校ではほぼ同じで、中学校はやや下回っている。

るが、「当てはまる」だけを比較すると中学校では相当上回っている。

- 将来の夢や目標を「持っている・どちらかといえば持っている」児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校はやや上回り、中学校は同じになっている。
- 学校のきまり・規則を「守っている・どちらかといえば守っている」児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校はほぼ同じく、中学校では相当下回っている。

(5) 『その他、特徴的な項目』

- 家の人と学校での出来事について「話をする・どちらかといえば話をする」機会については、全道と比べて、小学校ではやや下回り、中学校では相当下回っている。
- 今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校、中学校ともに相当上回っている。
- 新聞やテレビのニュースに関心がある児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校ではやや上回り、中学校ではほぼ同じになっている。
- 読書が好き・どちらかといえば好きな児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校では下回り、中学校ではほぼ同じになっている。
- 平日、普段1日当たり3時間以上テレビゲームをする児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校ではほぼ同じく、中学校は相当下回っている。
- あなたの学級では、学級会などの時間に友達同士で話し合っただけで学級のきまりなどを決めていくと思う児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校では相当上回り、中学校も上回っている。
- 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがあるという児童生徒の割合は、全道と比べて、小学校では相当上回っているが、中学校ではほぼ同じになっている。

【学校質問紙調査結果(学校の課題と取組)から】

- 小学校は、町内各校で国語・算数を中心としながら、家庭学習の継続的な実施や習慣づけを図るために宿題を出して基礎基本の定着を図ってきている。各校で配布している「家庭学習の手引き」等により家庭学習に対する学校と保護者の連携を図ってきている。「家で計画的に学習している」「家で宿題をしている」と回答した児童が全国平均を上回った結果となったのは、学校・家庭とが協力して家庭学習の習慣化の取組を行ってきた成果として表れてきている。引き続き、『学年×10分』以上を毎日の家庭学習時間として定着するよう指導を行っていく。

また、1時間の授業の始めに、その時間で何を学習するのか課題(めあて)を明確にし、授業の最後に学習内容を振り返る活動を位置づけるなど、その時間で学習する内容が確実に定着するように各校で授業改善の取り組みを進めてきた。

それが今年度の国語A・B、算数A、理科の平均正答率が全国を上回る結果につながっていると考える。

授業の中で、「児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動」を取り入れており、学習意欲の向上にもつながっている。加えて、算数TT（ティーム・ティーチング）での指導や町による学習支援員の配置により、指導方法の工夫改善が図られ調査の結果にも指導成果が表れてきている。

しかし、国語においては指導に一層の工夫が求められている。教科書の長文を読み取ったり、読み取ったことを関連付けながら決められた字数にまとめるなどの『活用する力』をいかにつけていくかが課題となっている。日常の学習活動の中で言語活動を意識しながらの授業づくりなど、更なる学力向上を視野に入れた事例研究や授業研究など校内研修の工夫・充実が求められるところである。

- 中学校では、学力向上に向けた取組として放課後学習や長期休業日を利用した補足的な学習サポートを実施するとともに、家庭学習の充実を図る取組を続けてきた。これまで「(宿題を含む)家庭学習の提出物に対して、適切な評価と授業での利用」を掲げ取組を進めているが、昨年までの指導に不十分さがあったことが調査結果からも読み取れる。

今年度からの取組として「家庭学習(特に宿題の課題)として、予習に重点を置いた課題とし、その成果を授業で生かすことができる授業づくり」を掲げ実践を進めている。

これにより、これまで「やりっ放し」になっていた宿題に「やることの意義」を持たせることが出来るようになった。また、予習をさせることによって授業での「わかった感」が高まり、授業への意欲向上にもつながることが証明できた。

また、授業については「目標の明示」などにおいて成果は見られるものの、「資料を活用した発表」「既習事項を活用した思考」などに課題が見られることから、「体験的」「課題解決的」な授業の展開が求められる。本校で今年度から研究課題として進めようとしている、「アクティブ・ラーニング」を取り入れた授業づくりにより、「教え合い、学び合う」ことができる生徒を育てたい。

校内研修を通して、組織的な取組を構築することにより、生徒の実感としての成果につながる事が明確に示されていることから、今後も校内研修等の充実を図り、実りある実践につなげて行くことが重要である。そのためにも、「アクティブ・ラーニング」を取り入れた授業づくりを組織的な研修により、毎時の授業で実践できるよう研究を進めたい。

おわりに

本年度実施されました「平成 27 年度全国学力・学習状況調査」における本町の状況は、小学校は、国語、算数、理科の全ての調査で全道の平均正答率とほぼ同じか上回っており、中学校は、国語 A、国語 B、数学 B が全道の平均正答率とほぼ同じでしたが、数学 A はやや下回り、理科では下回るという調査結果でありました。

9年間の平均正答率の推移については、年度間の差はあるものの総じて全国、全道平均より低い傾向は改善されつつありますが、平均正答率が全国・全道平均より低いということは、「習得することが望ましいと国が判断した学習内容」が、全国・全道の児童生徒と比べて身に付いていないということであり、基礎・基本の確実な定着に効果がある指導の着実な積み重ねの取組、児童生徒の実態に合わせた更なる教育指導の工夫改善が必要と考えております。

教育委員会では、引き続き授業における学習支援員の配置に努め、さらには、現在、各学校が取組んでいる放課後や長期休業期間の学習サポートなどの継続した支援を行うとともに、各学校と調査結果から明らかにされた課題を共有し、連携協働しながら小学校から中学校まで一貫した学力向上策の推進に努めてまいります。

また、児童生徒への質問調査からも、小学校児童の家庭学習習慣の定着が伺えることから、中学校においても小学校で身に付けた家庭学習習慣をより確かなものになるよう、更なる小・中学校の連携強化や、学習に関する関心や意欲の一層の向上を促す取組も求められているところであります。

今後、家庭と地域と学校がより一層連携し、児童生徒の学習習慣や望ましい生活習慣の定着が図られるよう、ご理解とご協力をお願いいたします。